

# 野菜、リンゴ 期待大

## 平川のバイオマス資源量調査

### 弘大・阿布教授 勉強会で報告

平川市は26日、市文化センターで市バイオマス産業都市推進勉強会を開いた。弘前大学大学院理工学研究科の阿布里提教授が、市内で行ったバイオマス資源量調査の成果を報告。数ある



平川市で再利用可能なバイオマス資源について考えた勉強会

食品残さなどのうち野菜類、リンゴが豊富に得られることを紹介した。市は、廃棄処分されているもみ殻や肉、魚介類などの生ごみを活用してバイオガス発電などを事業化さ

せ、雇用創出、地域活性化につなげる計画を掲げている。本年度は同大と共同で資源量調査を行った。

阿布教授は、食品製造業やコンビニなど市内102事業所のうち、60事業所から得られたアンケート結果を紹介。食品残さなどの年間排出量(773ト)のうち、リンゴと野菜類がそれぞれ全体の39%ずつを占め「野菜類は年間を通じて排出量が多く、リンゴは6、9月以外は比較的排出量が多い」と述べた。

また、これらを資源とした新ビジネスの創出に向けて「(市内での)バイオマス資源量をより正確に把握する必要がある」と語った。

(長内健)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r\_koho@hirosaki-u.ac.jp